

令和7年度 産業廃棄物税充当事業 実績報告書

事業名： 循環型社会に貢献できる産業人材育成事業（古川工業）

事業実施期間： 平成20年度から令和7年度

担当課室名： 高校教育課

担当班名： キャリア教育班

TEL: 022-211-3625

e-ko-career@pref.miyagi.lg.jp
mail:

URL: <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/koukyou/car-top.html>

1 事業の目的

産業廃棄物の再利用・有効利用を含めた、循環型社会に貢献できる技術者・技能者を育成する。また、廃棄物の発生抑制や、リサイクル産業の振興並びに循環型社会について、専門高校生として取り組むことのできる実践としての基礎的研究を各関係団体からの支援を受けて行う。

2 当該年度の実施事業の概要・実績

解体予定の木造建築物から部材を採取し、再利用可能な材料の補強方法を研究するとともに、規格材への加工を実施した。本年度は特に、校内で使用されていた木材（105mm角）の再利用に注力し、木工機械を駆使して案内板や環境美化物品、プランター等の製作に取り組んだ。産業廃棄物の処理・リサイクル工程を深く理解するため、リサイクル施設の見学を実施した。また、文化祭では「3R（リデュース・リユース・リサイクル）啓発活動」の展示を行い、生徒および来校者に対し、建設資源の再利用や有効活用の重要性を広く周知した。

- ・校内で使用する木製の案内板の製作【6枚】
- ・校内で使用するクラスボックス【1台】
- ・校内で使用する道具箱運搬台車【4台】
- ・サッカー試合用ベンチ【1台】
- ・ハンドボールゴール運搬台車【4台】
- ・機械科旋盤作業用踏台【2台】
- ・木製玩具の製作・提供【積み木セット10個】
- ・端材を活用した木製ストラップ【70個】
- ・木製ホワイトボードの製作【20枚】
- ・道具箱の製作・提供【10個】
- ・加工段階で出るカンナくず利用（県農業高校へ家畜の敷きわら材として提供）

本事業の実施にあたっては、津山町林業研究会、宮城県解体工事業協同組合、地元の大工および木製建具職人の方々に多大なるご協力をいただいた。専門的な知識の指導をはじめ、実地での作業体験や高度な技術・技能指導を受けることで、教育内容の深化を図った。

産業廃棄物の処理状況への理解を深めるとともに、設計から製作までの一貫したプロセスを学習。環境負荷を低減するものづくりを実践できる、次世代の産業人材としての素養を養った。

3 当該年度の実施事業の成果

- ・柱換算（105mm角）にして約20本分に相当する木材を再利用することができた。
- ・木工作業を通じて加工技術を習得し、設計・製作への理解を深めた。
- ・製作物を生徒の出身中学校へ寄贈することで、生徒が地域社会へ貢献する機会を創出した。
- ・端材や解体木材であっても、適切な製材を施すことで木工製品として再生できることを実証

し、生徒のリサイクルに対する意識向上につながった。

- ・リサイクル施設の見学を通じ、建築物解体後の資源循環や産業廃棄物処理の実態を学習した。ものを「つくる」だけでなく、「処理」までを体系的に学ぶことで、環境に配慮した産業活動に貢献できる人材の育成を図ることができた。
- ・地域の建設廃棄物処理業者や大工、木工職人との協力体制を構築し、実践的な学びができる環境を整えることができた。
- ・生徒へのアンケート結果では、建築物の建設から解体及び廃棄、再利用の方法までの工程を学ぶことで、多くの生徒がリサイクルへの意識を深めたことが確認できた。

4 今後の展開

- ・これまでに構築した各種団体や地域企業との連携体制を基盤とし、継続的な人材育成を推進する。今後も解体材料の安定的な確保や、現場見学・実習場所の提供について協力を仰ぎ、より実践的な教育環境の維持・向上に努める。
- ・廃材を活用した木工製品を地域社会で有効活用するため、町内会や各教育機関（小・中学校、幼稚園、保育園等）との調整を継続する。地域からの要望を真摯に受け止め、生徒の技術向上と社会貢献が両立するよう、製作物の選定や提供体制を精査していく。

5 廃棄物の削減・リサイクル、適正処理の促進の効果等を示す指標の数値

（指標：関連授業等指導時間数）

単位：時間

令和5年度	令和6年度	令和7年度
271	240	249

6 事業費の推移

単位：千円

令和5年度	令和6年度	令和7年度
2,131	2,325	2,429